
バカと兄弟と召喚獣

紫炎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バカと兄弟と召喚獣

【Nコード】

N5208Z

【作者名】

紫炎

【あらすじ】

二年生になった吉井明久は自分の双子の弟共に遅刻していた。この物語はそんな二人と＋を中心に進む物語である。

プロローグ（前書き）

他にも書いている小説があるのですが、どうしてもこれが頭から離れなくなり書いてしまいました。

今までの作品と書き方を変えてあるので、ご意見、ご指摘がありましたらどうぞ。

プロローグ

桜舞い散る坂道を二人の少年が駆けていく。

「兄さん、急げ！」

「わかってるよ！」

二人は道を走って行って、そしてとある学校の正門にたどり着く。

その学校の名前は文月学園。彼らはその生徒である。

走ってたどり着いた文月学園の正門には門を閉めようとしている先生がいた。駆けてくる二人に気づいたのか、門を閉めようとするのをやめて二人に話しかける。

「遅刻だぞ、吉井兄弟！」

「ああ、おはようございます先生」

「あつ、鉄……西村先生」

「おはよう、明峯。それと吉井、今『鉄人』と言おうとしなかったか？」

「気のせいですよ」

二人のそれぞれ異なった反応に西村先生は顔をしかめた。

俺こと吉井明峯は今回寝坊した兄さん、吉井明久と共に学校に遅刻した。昨日はあれほど言ったんだが……。

「それよりお前ら、一言足りないぞ」

「えっ？ えっと……？ 今日も肌が黒いですね」

「遅刻の謝罪よりも俺の肌の色が大事なのか、お前は……」

「兄さん、遅刻の謝罪だ」

「あつ、そうか。遅刻してすみません」

「……吉井、保健室に行つてこい」

「なんで!？」

ちゃんと謝つたのにどうして保健室に行かないといけないんですか。俺は呆れながらもとつと切り上げることにした。

「それより先生、例の紙を」

「うん？ ああ、そうか。ほれ」

西村先生はすぐ側の箱の中にある封筒を取り出すと俺たちに渡してきた。俺たちはそれを受け取る。

「振り分け試験の結果だ。よく見ておけよ」

「「はあゝい」」

封筒を受け取った俺たちは封筒の口を破こうとする。

「吉井兄弟、今だから言うがな」

俺たちに封筒を渡すのと同時に西村先生が遠くを見ながらしゃべり出す。

「俺は去年一年間のお前達を見て、『もしかすると、吉井兄弟はバカなんじゃないか?』なんて疑いを抱いたんだ」

「それは大いなる誤解ですね。そんな誤解をしているようじゃ『節

穴』なんて渾名をつけられちゃいますよ?」

俺は封筒をゆっくりと開けたが、兄さんがまだ開けていないので待つとする。

「ああ、振り分け試験の結果を見て、先生は自分の間違えに気づいたよ」

「そう言って貰えると嬉しいです」

やっと封筒を破いて中身を見る兄さん。俺も自分の結果を見ることにする。

「喜べ吉井兄弟。お前達への疑いはなくなった」

折りたたまれた紙を広げて、書かれているクラスを見る。

『吉井明久…… Fクラス』

『吉井明峯…… Fクラス』

「お前達は正真正銘のバカだ!」

「そんなバカな————!!」

予想外の結果にショックを受ける兄さん。俺は兄さんを慰めつつ、西村先生に一言文句を言う。

「先生、俺たちの成績が悪いことは認めますが、いきなり『バカ』呼ばわりはどうかと思いますか?」

「そう呼ばれたくないなら、それ相応の成績を取るんだな」

西村先生の言葉にも一理あるため、俺は兄さんを慰めながらFクラ

スへと向かった。

今日、この時から俺と兄さんの学年最低クラス的生活が始まった。

プロローグ（後書き）

どうでしたか？

次回もお楽しみに。

設定（前書き）

今後に変更されると思います。

設定

人物設定

吉井明峯

17歳

性格

冷静な反面、とあることが関わるとボケに走るボケと突っ込みの両属性。

容姿

ほとんど明久と同じだが、体格はがっしりとしている。明久との相違点は髪型が刹那・F・セイエイ（2期バージョン）と同じ髪型であること。そんな髪型にした理由は不明。

その他

明久同様家事は良くする方で、ちょっとしたこだわりもある。

武術と水泳をやっていたため、体力と運動神経共に高い。

兄を暴力と不幸と理不尽から守っている。

召喚獣

???

好きな物

ガンダム00 明久が作るパエリア

嫌いな物

同性愛者、敵

特技

喧嘩技、空手、柔道、水泳、銃の狙い撃ち

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5208z/>

バカと兄弟と召喚獣

2011年12月17日18時53分発行